

いわき農林事務所ニュース

2006年 7月号

活動状況

○ 差塩（さいそ）中学校で出前講座開催される

6月5日、市立差塩（さいそ）中学校において「農業でがんばっている人たち」をテーマに、出前講座が開催されました。今回は、創意の時間「なぜ学ぶの科」の中で、それぞれの職業エキスパートの話を聞く機会を持ち、中学校での学習が将来の自分の姿につながることを知り、生徒の進路や職業の選択に役立てることを目的に行われました。

講師は、差塩（さいそ）地区で農業を営む松崎正一郎氏にお願いし、「安全で品質のよい農産物を消費者へ届けることのやりがい」「農作物の観察することの大切さ」などについて、同じ地域に住む生徒達に、身振り手振りを交えながら話をして頂きました。

生徒達は、就農したきっかけ、農業への思いや生きがい、作業の内容や注意していることなどについても質問し、松崎さんの話に真剣に聞き入っていました。最後に生徒の代表が松崎さんに「今回の出前講座を今後の学習に活かしていきたい。」と決意を述べるとともに差塩（さいそ）地区と農業のすばらしさを再認識したようでした。



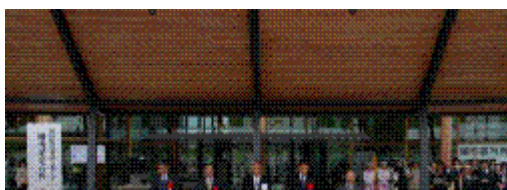
松崎講師を迎えて

○ 食と農の交流フェア IN（いん）農業総合センター」開催される！

6月10日～14日に、平成18年4月にオープンした福島県農業総合センター（以下センター）において「食と農の交流フェアIN（いん）農業センター」（以下「交流フェア」）が開催されました。

交流フェアは、広く県民に、地域の農業や食文化、健全な食生活等に対する理解を深めていただくとともに、センターの役割と機能を周知することを目的に、記念講演会、パネルディスカッション、伝統料理等の展示・試食、民間団体の活動紹介、農林水産物等の販売などが行われ、5日間（かん）で18,500人が訪れました。

いわき地方では、6月10日、11日の2日間（かん）、伝統料理等の展示・試食コーナーにおいて、しそみそ焼き、しそジュース、ウニ・アワビご飯、トマト、葉ネギ、トックリイモ、鉢花、エリンギ、乾シイタケを展示し、パネルでも紹介するとともに、しそみそ焼き、しそジュースは来場者の方々に試食していただきました。キュウリを添えたしそみそ焼きは「ご飯のおかずやビールのおつまみに最高！」、しそジュースは「さっぱりしていて、色もきれい」などと大変好評で、準備した300枚のレシピは1日でなくなり、増刷するほどでした。農林水産物の販売は、サンシャイントマト出荷協議会、（有）木紅木（きくもく）、田人（たびと）林業研究グループ、いわき新舞子ハイツ、浜の駅ふらっとの5団体が出展し、それぞれ大変好評でした。特にウニ・アワビご飯を販売した浜の駅ふらっとは、お昼すぎには完売するほど大好評で、いわき地方ならではの伝統料理のPRが図られました。





開所記念式典(テープカット)



しそみそ焼きの実演・試食

このほか、民間団体の活動紹介コーナーでは、NPO法人いわきの森に親しむ会が日頃取り組んでいる森づくりや環境教育活動を紹介しました。

また、6月10日にはいわき農林事務所主催で「交流フェア参観ツアー」を実施し、いわき地方のうつくしま農林水産ファンクラブの会員など33名が交流フェアに参加しました。参加者からは、「素晴らしい施設で福島県の農業の発展が期待できる」「生産者の生の声を聞くことができ良かった」などの意見が寄せられました。

今回の交流フェアは、センターの役割や地域の農業や食文化への理解を深めることができ大変好評のうちに終了しましたが、今後更に、当センターが県民に開かれた研究機関として、21世紀の本県の農業の先導的役割を果たすことが期待されます。

○ 第1回いわき地域有機農産物等普及推進会議開催される

いわき農林事務所では、有機栽培等の技術の普及や産地化を推進するため、5月30日に「いわき地域有機農産物等普及推進会議」(以下「会議という」)を設置し、6月15日には第1回目の会議と有機栽培実証ほでの現地検討を行いました。会議には有機栽培等実証ほの担当農業者や県、市、JAなど関係機関、団体の担当者が出席し、県が進める「ふくしま型有機栽培」等産地づくりの考え方や推進方策の内容を検討するとともに、いわき地域における有機農産物等の普及推進計画について協議しました。



推進会議の様子

また、引き続き行われた現地検討では、水稲とネギの有機栽培実証ほにおける生育状況を確認しました。特に水稲のほ場では、有機栽培における最大の課題である雑草対策として米ぬかやくず大豆の散布が効果的であることを実感することができました。今後も定期的に開催し、有機農産物等を活かした農業の振興を図っていく予定です。

○ いわき地区生活研究グループ連絡協議会が受賞 ～第47回福島県農業賞表彰式～

6月19日(月)、第47回福島(ふくしま)県農業賞表彰式が郡山市日和田の県農業総合センターで行われました。いわき地方からは、いわき地区生活研究グループ連絡協議会が「集団活動部門・農村女性活動の部」で県知事賞、県農業会議賞、県農業協同組合中央会賞、ラジオ福島(ふくしま)賞、福島(ふくしま)民報社賞を受賞しました。



晴れの表彰式

いわき地区生活研究グループ連絡協議会は、昭和50年に市内で農業に取り組む女性を中心に発足し、会員同士や他の団体との交流を図るとともに、地域の住民に食と農の情報を提供しています。伝統的でおいしい食事を伝えるため、公民館、学校、事業所などで毎月1回、郷土食の講習会を開いています。会員が講師を務め、地元で取れた新鮮な食材をふんだんに使って、手作りのメニューを懇切丁寧に指導しています。

また、正月やお盆、彼岸など節目の時期に味わう「行事食」の普及にも熱心に取り組み、日本の風土に根付いた豊かな食生活の発展・継承に努めています。これらの長年の実績が評価され、今回の受賞の運びとなりました。

代表である柴崎英子会長は、「メンバーの努力のたまもの。今後も、郷土食のよさを伝えていきたい。」と受賞にあたっての抱負を語っており、益々の活躍が期待されます。

6月28日、市立渡辺小学校の5年生児童15名が、田んぼの草取りを行いました。

作業に先立ち、「なぜ取るのか?」「どんな雑草が生えているのか?」「雑草とイネとの見分け方は?」等について説明を受けました。特に、ヒエはイネとよく似ており、その違いを真剣に聞いていました。

まず、もち米エリアの草取りを、手作業で行いました。児童たちは、「これはヒエみたい」とか「これ何だっけ?」と名前を確認しながら抜いていきました。なかには、説明のなかった雑草を発見し、「これは、さっき説明なかったよ!」と鋭い質問をする児童もいました。ちなみに、その雑草の名前は「スズメノテツポウ」でした。

次に、うるち米エリアの草取りを、手作業と3台の田車(先端に鉄の歯車が付いた手押し除草機)で行いました。なかなか前へ進まずに苦戦していた児童もいました。

作付エリア10a全ての草取りが完了し、いつもは元気な児童達も、さすがに「疲れたー」という感じでした。

草取りの作業を通じて、自然環境への理解を深めるとともに、環境にやさしい米づくりの大変さを体験したことは、児童たちの大きな糧になったのではないかと感じています。

今回は、7月13日の「かかしづくり」です。どれだけユーモアある「かかし」ができて上がるのか、今から楽しみです。



みんなで草取り

トピックス

○ 平成18年度「牛のいる風景創出事業」 いわき市三和(みわ)町で導入される

いわき市三和(みわ)町差塩(さいそ)地域の遊休水田(80a)が、平成18年度「牛のいる風景創出事業」のモデルほ場に選定されました。(管理受託者はJAいわき市)

6月2日に関係機関と連携し電牧柵を設置、6月19日には開牧式が行われ、事前に電牧柵で馴致された2頭の和牛繁殖雌牛が放牧されました。

関係者が見守る中、放牧された2頭の牛は恐る恐る草むらの中に入って行きましたが、すぐに環境にも馴れ、ゆっくりと草をはんでいました。必要経費(電牧柵・給水施設の設置等)は本事業でまかなうことができるため、管理受託者の負担がありません。

その後、放牧地と牛の状況を確認しましたが、野草も豊富にあり、2頭共に健康状態も良好で元気に過ごしていました。

放牧は10月頃まで行う予定ですが、今後も定期的に調査を行い、事業の有効性等について検証し、遊休農地の解消及び放牧技術の普及に役立てたいと考えております。

なお、本事業は伊達市、天栄村、棚倉町、相馬市の4地域でも実施されております。



放牧された和牛